

別記様式(第4条関係)

会 議 録

会議の名称	第3回加東市商工業振興協議会
開催日時	令和5年2月14日(火) 13時30分から15時00まで
開催場所	加東市商工会2階小会議室
出席及び欠席委員の氏名 (出席委員10人) 長沼恒雄、吉田伊佐見、長谷川妙子、土肥富夫、赤瀬伸、戸田美幸、 林万美子、山本理之、奥村眞司、長田徹 (欠席委員) なし	
出席した事務局職員の氏名及びその職名 産業振興部商工観光課 課長 菅野勇一、副課長 松末久美、主事 新地翔太 加東市商工会経営支援課 課長 柳 隆之	
議題、会議結果、会議の経過及び資料名 1. 協議事項等 (1) 報告事項 ①令和4年度業界研究セミナー事業実績報告 ②福田小学校プログラミング教育視察 (2) 協議事項 ①Kato Digital Campus (KDC) について ②大学と連携した企業や地域の課題解決について 2. 会議資料 第3回加東市商工業振興協議会資料 3. 会議の概要、経過 別紙のとおり	
令和5年3月23日 会 長 <u>長沼恒雄</u> 副会長 <u>吉田伊佐見</u>	

(別紙) 令和4年度第3回加東市商工業振興協議会の経過

1. 開会

2. 報告事項

(1) 令和4年度業界研究セミナー事業実績報告

発言者	会議の経過/発言内容
事務局	<資料に基づき、令和4年度業界研究セミナー事業実績報告について説明を行う。>
委員	参加学生が65名ということであるが、オンラインで参加した学生も含まれているのか。
事務局	オンラインでの参加学生を含めて65名です。
委員	対面での参加学生は何人か。
事務局	8名です。
委員	参加企業数は14社に対して、参加学生8名ということであるが、1人も学生が来ず、説明する時間がなかったなど参加企業の不満はなかったのか。
事務局	学生が1名も訪問していないという企業はありませんでした。
事務局	アンケート結果から学生はオンラインでの参加を希望しており、企業は対面での参加を希望しているという考えの差がありました。今回のセミナーで実感したため、今後の参考としていきたい。
議長	最近の就職関連イベントはどういう状況なのか。
委員	<p>今回のアンケート結果によく表れていると思う。</p> <p>基本的に学生の就職活動の始まりはオンライン形式でいいと思うが、就職活動が進んで行くと対面がいい。</p> <p>大学3回生が1月に業界研究セミナーに参加するということは、就職活動を標準的なスピード感で始められている。</p> <p>「とりあえず就職活動を始めよう。」「とりあえずオンラインで参加してみよう。」という学生だと思われるので、今回のハイブリッド型による開催は良かったと思う。</p> <p>また、凄く特徴的であったのが、学生アンケート結果の3つ目「本日のハイブリッド業界セミナーは何で知りましたか。」である。</p> <p>上から「はりまっち2024のトップページ」、「はりまっち2024のメール・LINE」という結果である。</p> <p>LINEを登録すると登録した学生向けに案内のメッセージが届く。</p> <p>そのメッセージをみて、学生も参加してみたいという気持ちになるため、今後はこの部分を重視していくといいと思う。</p> <p>あと、企業側が有効と思われる施策がインターンシップということであるが、インターンシップしかないと思う。</p> <p>人材サービス・人材紹介会社の調査によると、就活生が1日制のインターンシップを1人当たり約7社を受けているという結果であった。</p> <p>今回の参加学生アンケート結果も良いものであるが、もう少し母数が多いと良かった。</p>
議長	私も今回のアンケート結果は、納得のあるデータであると感じた。今後どういう形か分からないが、商工会などでインターンシップのやり方について事業者向けのセミナーなどを開催出来ればと感じた。

	<p>弊社の場合、オンラインによるインターンシップも実施しており、多くの参加があったため、商工会に相談して、事例紹介などを出来ればと思う。</p>
委員	<p>企業はインターンシップの次に、インターンシップに参加した学生の特性を把握した上で、インターンシップに参加した学生向けのセミナーを実施するなど、インターンシップ参加学生に限定した動きで採用活動を進めていくと思われる。この動きは、非常に有効であり、そのためには加東市内の企業も勉強が必要である。</p>
議長	<p>確かに勉強する場が必要だと思われるが、ハローワークでは出来ないのか。</p>
委員	<p>行政はそこまでサポートをすることが出来ない。</p>
委員	<p><参加学生アンケート結果について> 参加学生 65 名に対して、アンケート回答数が 37 であるため、かなり回答率が低いと思われる。参加学生全員が回答必須という条件ではなかったのか。 また、質問 5 について「対面参加の方にご質問です。」ということであるが、回答数が 36 である。 アンケート自体が正確に答えられているのか疑問に感じる。</p>
事務局	<p>アンケートの回答については、回答不要の学生（オンライン参加の学生）が質問に回答しており、市で集計結果を修正することは出来ないため、そのまま使用させていただきました。</p>
委員	<p>今回、大学 3 回生を対象に 1 月末に実施したが、例えば開催時期をもう少し早めるなどをする事によって、間口は広がるのか。 それとも今回のように 1 月頃の時期がいいのか。</p>
委員	<p>学生の就職活動のイメージとしては、興味を持って 1 月頃に就職関連イベントに参加し始めるのが早めのスタートであり、企業説明会などが始まる 3 月から始めるのが標準のスタートである。 採用選考が始まる 6 月から始めると遅いため、この 1 月当たりの時期が良いと思われる。 テーマによるが業界研究セミナーという名前に興味を持つかどうか、スタイルとしては、業界を絞らずにもう少し広く、昔は業界研究という流れであったが、個人的には今の流れではないように感じる。 参加学生アンケート結果の質問 4「就活の企業選びは何を重視しますか？」にもあるが、文系ほどワークライフバランス、理系はチャレンジできる、成長できるという部分を選ぶ傾向にある。 ただし、その時期によって業界はいいという学生もいるかもしれないため一概には言えないが、個人的にはちょうど良い開催時期であったと思う。</p>
委員	<p>実際に対面で開催したことは始めてであったが、よく開催場所で悩んでいた。 開催時期についても、以前は遅いなどの意見もあったが、先程奥村委員が 1 月頃の開催がちょうど良いということを言われたように良い時期が見えてきた。 コロナ禍で比較は難しかったが、3 回程度振興協議会を通じて、合同企業説明会や業界研究セミナーなど形を変えて実施しているため、その比較についてお聞きしたい。</p>
事務局	<p>今回のセミナーについては、日程の雪が降り、交通 JR のダイヤが乱れるなど、セミナー当日まで対面で開催するか悩みました。</p>

	<p>事前登録者はもう少し多かったが、対面の参加学生が 8 名だったのは交通機関が乱れた影響もあるかもしれません。</p> <p>今回に関しては、交通の利便性から加古川市を選んだが雪の影響があったため、今後、開催地を加古川市にするのか、どこにするのかの検証材料には出来ませんでした。</p> <p>今までは加東市内での開催を考えていたが、今回、加古川市で開催していたため参加できたという学生様もおられたと思われるため、市内外どちらで開催するか判断が難しいと感じます。</p>
委員	事前登録者数は何名でしたか。
事務局	70 名以上の方が登録されていました。
委員	そのうち対面での参加学生は何人でしたか。
事務局	<p>対面で参加された学生が何人かは分かりません。</p> <p>今回のセミナーに参加したいということで登録いただいた学生が 70 名を超えていましたが、実際にセミナーに参加された学生数が 65 名であったため、もしかすると参加を希望していたが、当日来れなかった学生もいるかもしれません。</p>
議長	来年度予算は
事務局	来年度予算は同額程度要求しています。
議長	事務局と検討して、開催場所どこがいいのかなど検討して、議題として提案したいと思う。

(2) 福田小学校プログラミング教育視察

発言者	会議の経過/発言内容
事務局 委員 議長	<資料に基づき、福田小学校プログラミング教育視察について説明を行う。>
委員	Pepper (ペッパーくん) の台数が少なく、市内の小中学校で中々回っていないということだが、1年間を通してプログラミングの技術が身につく程度の内容や頻度で授業が出来ているのか知りたい
議長	<p>時間がなく、あまり詳しくは聞いていないのだが、よく学生向けのプログラム教材として採用されている SCRATCH (スクラッチ) を使っている。</p> <p>SCRATCH は動画編集などができるため、普段はそういったことに取り組み、トレーニングされていることだと理解している。</p> <p>そのため、今回はプログラムを使用し、Pepper を動かす練習であるが、普段は、絶えずロボットが学校にいるという訳ではなく、Chromebook (クロームブック) を使用し、動画編集やローコードを用いてプログラミング作成などを行っているため、プログラミングについては充分理解されている。</p>
委員	<p>プログラミングに興味を持っている子供達や喜びを感じている子供達はたくさんいる。</p> <p>予算の都合で Pepper 追加導入が 1 年後、2 年後となるスピード感と子供たちの吸収するスピード感には差があるため、ぜひともスピード感をもって取り組んで欲しい。</p>
委員	GoogleChrome (グーグルクローム) は分け隔てなく、全員に配布されて

	<p>いるため、基本的に教科書を持って帰らなくても宿題ができる環境になっていた。</p> <p>課題として授業はできているが、プログラムに興味があつて次の段階へ進みたいという学生に対する授業はできていない。</p> <p>そういったプログラミング講師や、プログラミングに興味を持った子供たちが発表する場が必要とされる場面で、民間事業者や市民の方が、プログラミング大会を行うなど、活用していくことで教育のヒントをあげることができるのでないかと感じた。</p> <p>また、これから協議していく課題であると感じた。</p>
委員	<p>Pepper が、市内に 1 台しかないという部分については、実証実験的な部分が大きいと思う。</p> <p>そのため、当然そこで成果ができれば教育委員会部局の方で予算を取って Pepper を追加導入していく流れになると思う。</p> <p>今日いただいた意見などについては、教育委員会部局に情報提供させていただきたいと思う。</p>

(3) Kato Digital Campus (KDC) について

発言者	会議の経過/発言内容
議長	<資料に基づき、Kato Digital Campus (KDC) について説明を行う。>
委員	産官学金連携とあつたが金融機関の役割は資金面ですか。
議長	<p>金融機関も地域連携の政策をとられている。資金面だけでなく、色々な部分に繋いでいただくなどの面からも必要であると考えている。</p> <p>スタートアップ支援のような印象もあるが、多くの事例やノウハウを持っておられるため、そういった部分も必要であると考えている。</p>
委員	これは運営主体はどこのイメージなのか。
議長	<p>おそらく商工業振興協議会になる。</p> <p>全国で色々な先行事例があるため、研究していく必要がある。</p> <p>政府としても会津若松市をモデル地域としているなど、参考にして取り組むようにすすめている。</p> <p>何のためにするのかということをもっていないと失敗するため、専門家に相談することや成功事例を参考にするなど研究していく必要がある。</p> <p>ただ、ロボットコンテストとこれからスタートする兵庫教育大学との連携事業は KDC の一部分ということである。</p>
委員	<p>加東市には、兵庫教育大学があり、学習面では様々な分野の教授がおられるため、タイアップは必要であると思う。</p> <p>また、キャンパスの場所の確保については、今、社小学校の跡地を売却しようとしていると聞いた。</p> <p>キャンパスの場所は新たに作る必要はない。</p> <p>新しく場所を作るためには多くの費用がかかるため、鴨川小学校などあるが、跡地を簡単に売却するのではなく、活用していくこと必要だと思う。</p> <p>この協議会で考えているものは、コンピューターだけに限らず、美術作品を制作している人や工作活動している人が、そういった廃校となった跡地を活用することと同じものだと考えている。</p>

	<p>こういった廃校を活用し、Wi-Fiがあれば活動できる環境を提示することで、加東市に住みたいや若者や地元に住みたい若者が増えていく。</p> <p>そうすることで議長が言われたように意味のあるものになると思う。</p> <p>福田小学校や米田小学校、滝野地域の小学校も 7 年後には閉校となってしまう。そういった跡地を活用して、新たなキャンパスにしていく欲しい。</p>
事務局	閉校する小学校の跡地については、活用希望の話をしています。
委員	<p><Kato Digital Campus (KDC) について補足説明></p> <p>Kato Digital Campus (KDC) 構想を実現するために、新たに何かを進めていくということではなく、商工業振興協議会として、商工業関連でこういったことに取り組んでいけばいいかということを考えていかなければならない。</p> <p>そうすると、商工会と連携することや、市内での受け皿の確保が必要である。人材確保が難しい事業者は、IT を活用することで現状の人員で対応出来るような工夫も出来る。</p> <p>まずは現状どういったことに取り組んでいるかを見ていく中で、小学校や中学校ではここまでプログラミング教育ができていいるなど実態を把握し、今後取り組む必要がある部分について考え、実行していくという流れになればいいと思う。</p> <p>小中高と様々なプログラミング教育方法がある。次の議題に上がってくるが、大学のプログラミング教育においても、どのような内容に取り組んでいるかという実態を把握する必要があると感じた。</p> <p>全体として最終的には、KDC 構想の実現に向かうことだと思うが、まずは、協議会として商工業分野でどのようなことに取り組んでいけばいいか考えていくことだと思う。</p>
議長	<p>委員が言われたように商工業関連の部分から糸口になればと思う。</p> <p>協議事項「大学と連携した企業や地域の課題解決について（資料 4）」も関係しているため、続けて説明させていただく。</p>

(4) 大学と連携した企業や地域の課題解決について

発言者	会議の経過/発言内容
議長	<資料に基づき、大学と連携した企業や地域の課題解決について説明を行う。>
委員	<p>市が DX に向けてどのような方向性で動いているかが、とても重要な部分になってくるかと思う。</p> <p>市には、加東市 DX 計画という計画があるが、策定したばかりで抽象的で大きな目標や指針しか書かれていない。その計画の方向性と範囲内であれば動くことができる。</p> <p>KDC 構想の実現に向けて、色々なことに取り組んでいこうと思うと、小さい頃からの人材育成が重要になってくる。</p> <p>資料 4 で提案していただいている内容も、大学での人材育成である。</p> <p>まず一つは、協議会として、DX・IT に特化した人材の育成に向けた内容に取り組んでいければと思う。</p> <p>議長がいわれていたように最初から色々なことに取り組むのではなく、まずは小さい頃から大学生になるまでのプログラミング知識や技術の教育方法について一緒に考えていければと思う。</p>

	<p>先行事例の調査を行い、どのようなことに取り組んでいるかということ把握出来ればと思う。</p> <p>商工振興協議会だけで取り組むだけでは実現できないため、商工会とも連携して、市内の事業所がどうなりたい、どうやっていきたいという実態を把握し、少しずつ成果がでるように進めていきたい。</p> <p>また、主体どこになるかという話があったが、事務局は商工観光課になると思われるので、協議会の協議事項や意見についてはまちづくり創造課などに共有させていただく。</p> <p>協議会で協議し、決定いただいた内容をもってまちづくりに活かしていけるような流れで進めていきたい。</p>
委員	<p>この兵庫教育大学と連携した STEAM 学習について、掲示する現状課題は、情報提供が大事である。</p> <p>学生に提示してもらっただけでなく、協議会としても夏までの間に事務局へ提示するなど色々な分野を出すことで、今回はこの課題について取り組んで欲しいという内容まで協議する必要があると思う。</p>
議長	<p>教授ともテーマをこちらから提供して、その中から選択してもらおうという形で進めていこうとしている。</p> <p>難しいことは学生にもできない。今年は、学生に分かりやすいということで、商工業の中でも商業の話題で進めていく予定である。</p>
委員	<p>兵庫教育大学の学生は、大学生より大学院生が多いか同じくらいだと思う。</p> <p>大学院生の方は、西日本から色々な現場をみて、何かを変えたいと課題をもって兵庫教育大学に来られているため、加東市と住んでいた地域の差をよくご存じかと思う。</p> <p>この事業で大学と連携して、活性化に繋げてもらえればと思う。</p>
委員	<p>今回兵庫教育大学という大学の内容であるが、社高等学校で地元企業の課題を解決するといった同じような内容をしている。</p> <p>来年度も探究活動というものを実施するため、それぞれ地元企業、地場産業等として協力いただきたい。</p>
議長	<p>大きな話（構想）であるが、できることから、スモールスタートで始めていきたい。</p>

4. その他

5. 閉会